

HOUSE OF THE YEAR IN ELECTRIC 2009

—選考のポイント(特徴的な取組み)と低炭素社会に向けての「住宅」への期待—

2010年2月16日

株式会社三菱総合研究所

主席研究員 吉田直樹

HOUSE OF THE YEAR IN ELECTRIC 2007 — 2009

■ 2007

- スタートの年、Ⅲ、Ⅳ地域のみ対象
- 15社、45地域・シリーズからの申請

■ 2008

- オールジャパンに拡大
- 23社、53地域・シリーズからの申請



■ そして、2009

- 従来評価の工夫も取込みつつ、国の判断基準(一次エネベース)への準拠
(HoYの主な特徴;超次世代基準評価、空調機器設計、高効率湯使用、日射侵入 等)
- 34社、92地域・シリーズ)からの申請
 - 大手メーカーから中小ビルダー、地場工務店まで非常に裾野が広がった!
 - 多くの連続応募、そして連続受賞!

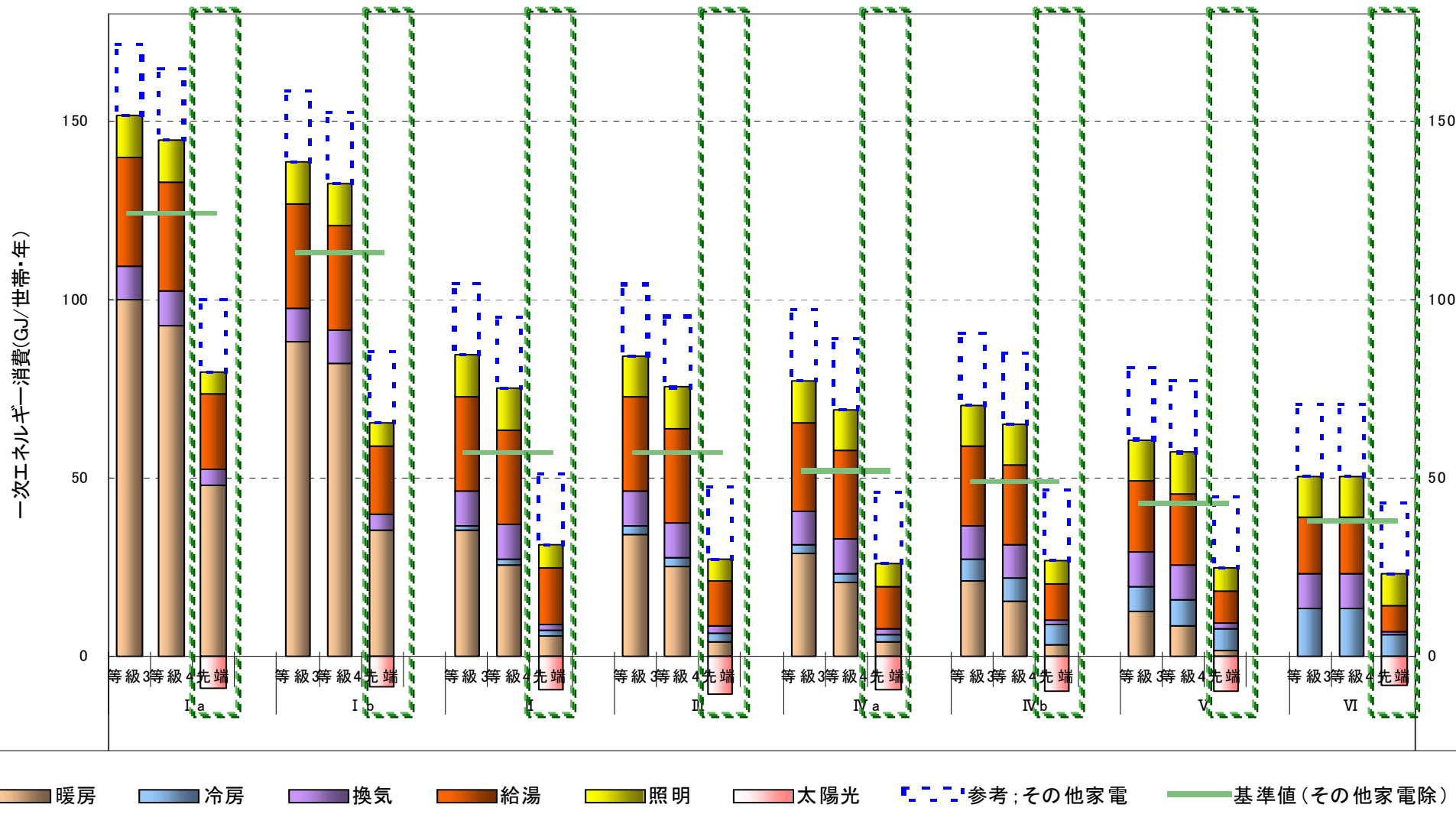


■ 2010に向けて...

受賞シリーズに見られる特徴的な取組み例

- 非常に高水準の高気密・高断熱への取組み(新たな「●●を旨とすべし」?)
 - 次世代基準を大幅に超える水準の実現
 - 性能保証 等
- 高気密・高断熱を前提とした高効率暖冷房設備、給湯設備
 - 高効率機器の推奨、採用支援
 - 再生可能エネルギー積極活用(太陽光、太陽熱)
 - 行政制度活用促進、金融機関連携 等
- 低プライスの実現(省エネとの両立)、標準化
- 住まい手、住まい方へ提案、関与、サポート
 - 低炭素な住まい方提案、見える化
 - 超寿命住宅を念頭においたメンテ・補償によるリレーション 等
- 「生活」への展開
 - 次世代自動車(EV等)を念頭においた商品企画、設計
 - 地域、街区でのコンセプト 等
- 新たなビジネスモデルの模索
 - 工法、フランチャイズ 等

省エネ住宅トップランナー基準とHoY2009のトップランナー水準



*) 等級3、4水準、基準値はデフォルト値ベース(I 地域を除き、個別間歇運転、暖房エアコンベース)

資料: MRI試算

住宅「低炭素化」へのいくつかの重要な方向性(例)

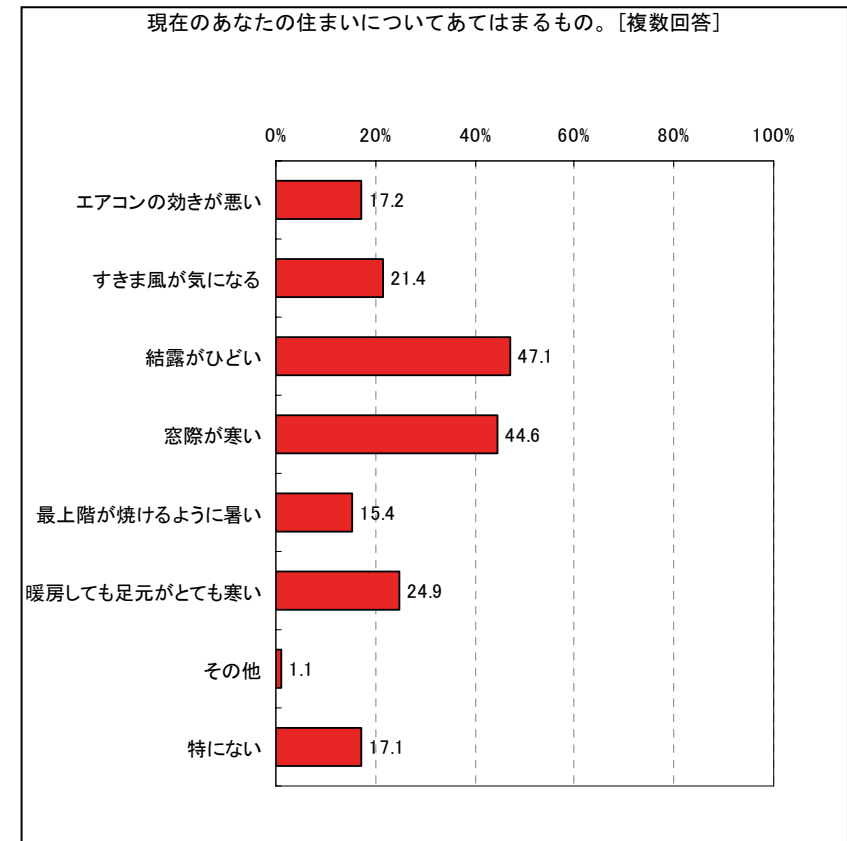
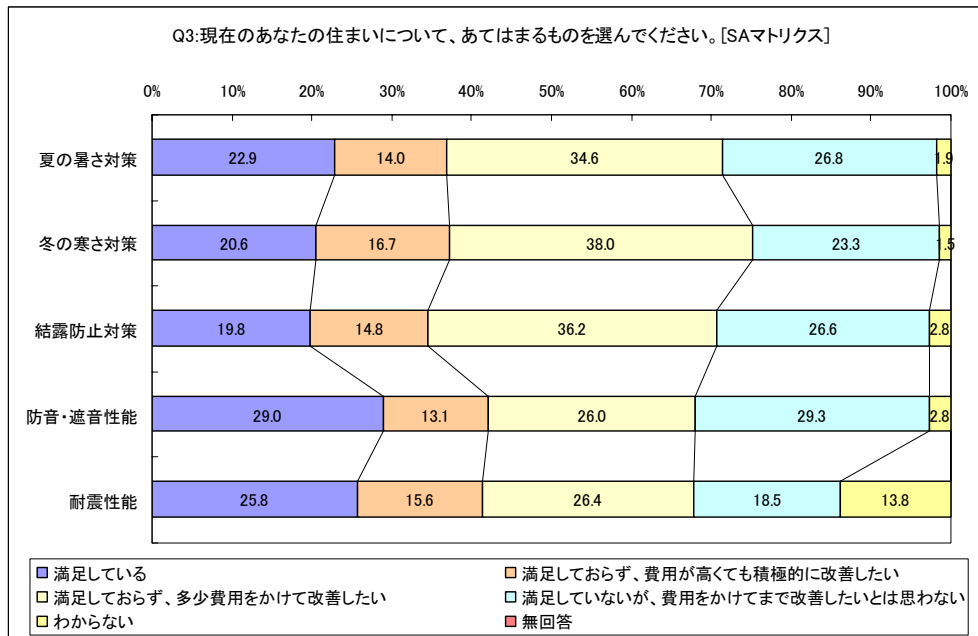
- 外皮と設備、そして再生可能エネルギー(太陽光・熱他)
- 住まい方、住まい手との連動
- モビリティ(EV化等)へのアプローチ
- コミュニティ・エリアへのアプローチ
- 「熱」以外、躯体・基幹設備以外へのアプローチ
- スマート(ICT適用)アプリケーションの場としての家(“スマートハウス”)
- マンション・集合住宅
- リフォーム
- 低炭素化以外の大潮流; 超高齢社会、情報過剰社会(どちらも日本が先進国!)
- 長寿命住宅を前提とした新たなビジネスモデルの模索

受賞シリーズでは、
いくつかの項目についての
取組みは、既に展開中!

参考：住宅のリフォームに関するニーズ(省エネ、断熱化関係)

- 大多数が夏の暑さ対策、冬の寒さ対策に満足していない。
- 約5割が費用をかけて改善したい。

- 「結露がひどい」(47.1%)が最も多く、以下「窓際が寒い」(44.6%)、「暖房しても足元がとても寒い」(24.9%)の順。



*)リフォーム予定を持つ2000名対象、2009年実施)

資料：MRI実施アンケート調査

参考;低炭素社会(2020年「中期目標」)に向けての動向

- 2010年1月26日に国連事務局に提出(国連における「鳩山スピーチ」踏襲)
 - 全ての主要国による公平かつ実効性のある国際的枠組みの構築及び目標の合意を前提として、
 - 2020年の排出削減目標を**1990年度比25%(概ね2005年度比30%)削減**
- 「1990年度比25%削減」の内訳、ロードマップが3月末に公表
 - 地球温暖化対策基本法/地球温暖化対策基本計画
 - 「地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ検討会」
 - 国内削減分(「真水」として、90年比▲15~20%(05年比▲20~30%)程度が想定(麻生政権目標は05年比▲15%)
 - **家庭部門(住宅)については、90年比20~30%(05年比▲40~50%)程度のアロケーションの可能性**

**HOUSE OF THE YEAR IN ELECTRIC 受賞水準の
省エネ、低炭素住宅の普及が不可欠!**

たくさんのご応募、
どうもありがとうございました！

2010、そして2011以降に向けての
新たなチャレンジを、
是非、ご一緒によろしくお願いします！